



平成27年産りんごの予想収穫量について (平成27年8月1日現在)

1 りんご予想収穫量推計の目的

県及びりんご関係団体等が、生産・流通・販売対策に的確に取り組んでいくための基礎データとして活用する。

2 平成27年産りんごの作柄概況

平成27年産のりんごの作柄は、開花期間中好天であったことから結実量が多く、十分な着果量となっている。また、果実肥大は、平年を上回っている。

3 平成27年産りんごの予想収穫量調査結果の概要

平成27年産りんごの予想収穫量は、前年収穫量を6,600トン上回る47万4,600トンが見込まれる。

品種別では、つがるが前年を2,500トン下回る4万8,100トン、ジョナゴールドが前年を3,300トン上回る4万9,000トン、王林が前年を600トン上回る4万7,700トン、ふじが前年を6,000トン上回る24万1,500トンとなった。

表 平成27年産りんごの予想収穫量

区分 品種	結果樹面積 (ha)	予想収穫量 (t)	前年収穫量 (t)	前年対比 (%)
つがる	2,290	48,100	50,600	95
ジョナゴールド	2,040	49,000	45,700	107
王林	2,170	47,700	47,100	101
ふじ	9,660	241,500	235,500	103
その他	3,840	88,300	89,100	99
計	20,000	474,600	468,000	101

※1 結果樹面積は、りんご果樹課推定値

※2 予想収穫量は、平成27年7月29日～7月31日に調査した着果数、肥大状況などから推計

※3 前年収穫量は、国公表の実績値

※4 前年対比は、前年収穫量に対する比率

4 今後の対応

- (1) 依然として着果量が多いことから、適正着果量となるよう発育や果形の悪い果実、黒星病などの病虫害被害果、さび果などの障害果を中心に、見直し摘果や樹上選果を徹底する。
- (2) 本年は生育の進みが早く、成熟期も早まると見込まれるので、良食味果の収穫のため、熟度調査結果の活用などにより、適期収穫を徹底する。
- (3) 台風等の気象災害対策を徹底する。